

討 論

(安原 司会) 大変広範囲にわたって都市と農村の現局面における対立のあり方の現象形態なり問題点が、主に政策の意図あるいは効果、そこから続いてくる自治体との関係というところで述べられたいが、特別私の方では整理などしないで、時間もあまりないので、自由に質問なりご意見なりいただきたいと思う。

(高橋) 「新全総」(新全国総合開発計画)は最初から工場を農村の末端にまで地方分散ということを考えていたのか。私、「新全総」は「志布志」だとか「むつ小川原」だとかあいう大規模拠点開発が一番のねらいにあって、それから地方の中核都市を整備して、この都市機能を整備すると、過密問題もそれに対処するという形で、農村工業導入促進法というものは、むしろ農業というものの矛盾から出てきたのであって、「新全総」から直接出てきたものではないという印象をもってしたが、今の説明だと、「新全総」の初めからそのことをねらいとして、というよりはむしろそのことに重点があったということであるが……。

(蓮見) 私もその方はどうもよくわからないが、「新全総」のプランを見ると、「志布志」だとかあるいは「むつ小川原」だとか、「秋田」だとか大規模工業開発という問題があるが、それはムード

であって「新全総」それ自体の中ではあまり具体化されていない。大規模な開発というのは載っているが、それはかなり評判がよくてあの中で大規模な開発とそれから各地方の七つの県のそれぞれを整備するというのと、その七つの県の中に中核都市というものを考えていくというふうなことが出てくるが、大形の開発にはあまり触れていないようである。

(高橋) 大規模開発のほかに、中核都市を整備していくという形で、農村の問題は広域生活圏の中で考えるという形で末端の農村まで必ずしも工業化を考えていなかった。むしろ「新全総」ができた直後の段階から、その前から問題はあっただろうが、農村や農業内で「新全総」の思想やものの考え方とぶつかるころがあった、そういう矛盾の間から出てきたような気がするが……。

(蓮見) その辺、私もはっきりわからないが、農村工業導入促進法というのは確かに農業の中から出てきた面もあるが、あれは何か三つ、四つのプランがあって結局一つにまとまってくるような経過である。現象的には何か通産省プランと農林省プランとがぶつかりあっているようで、どこが違うかよくわからないが、「低工法」(低開発地域工業開発促進法)の手直しという面が一応主軸であったのではないか。そしてもう一つは農村工業導入促進法では農業と工業とのつながりをつけていくのだと。工業の導入によって農業の構造改善を計るということ。そういう意味で周辺の農村地域とその工業とが一つに結びついて一つの小さな圏域ができて、そこでまとめた開発が行なわれる。であるから農業の中の矛盾からというよりは、どうも減反があつて出てきた行政というものが一方にあって、たまにたまそこへ乗ったというふうなことで私としては見ている。

(高橋) 新産都市や「低工法」の役割が非常に消極的で、あまり効果がなかったということであるが、確かにそういう側面もあると思うが、一つ重要な点で道路を整備したという面と、そういうムード作りをやったという点ではやはり一応役割は見ておく必要があるのではないか。

(蓮見) もちろんそういう点は私も評価しなければならぬと思う。ただ実際にどれだけ工場が動いたかということになると、あまり効果はない。

(高橋) つまり農業センサスでも国道や県道が各集落の七〇%ぐらい通っているということで、そういう事態を作り出している面ではいろいろな工業開発というのは、農村地帯で非常に大きな影響を及ぼした。それが集落のあり方にも徹底的に影響を与えているわけであるから、道路ができたということが村落を考える場合にはそういうことも見ておく必要があるように思う。もう一つ、集落再整備とか農村基盤整備事業に関連して、これは単独で行なわれるわけではなく、新都市計画法のようなものとの関連の中で見なくてはいけないのではないか。基盤整備が行なわれる場合にもやはり工業地域や住宅地域は確保される。であるから基盤整備を単独で見るとはなくて、やはり新都市計画法などとの関連で見るとも必要ではないか。

(蓮見) 農村工業導入ではこういう考え方がとられている。工業の導入と農業の構造改善を結びつける方法として農業の基盤整備をやると大体「補延び」があつていくらか余まりの土地が出てきて、それを工場用地にする。あるいは基盤整備をやる過程で、みんながもっている土地をわずかつ減らす、「共同減歩」とかいう。基盤

整備とその地域に住んでいる人が共通の負担をして工業用地を生み出すという発想が、工業と農業を結びつけようという形になる。

(佐々木) 資本による直営農場というのは一つのインテグレーションと言われたが、たとえばそれが労働力を形成している農民の収入を増加させたという面もあるが、反面ではたとえば既存農家の要求とか、そういう農業経営を圧迫した面があるのではないか。そういうことで大きな問題になっているところはないかということ。一つと、それから階層別によって収入が逆に変化してきたわけで、かえって小規模農民の方が収入が多くなってきた。その場合に集落内部での階層関係にどういう影響を与えているかということ、何か具体的な例があれば……。

(安原) インテグレーション農業による集落の階層的な再編成がどうなっているかということか。

(佐々木) 一つはそれが既存農家の農業経営にどういう圧迫を与えているか。そういうので何か一つの大きな問題になっている例がないのかどうか。それともう一つは階層の収入が変化してきたが、つまり小規模農民の方が収入が多くなっているわけであるが、それが村落内部の階層関係に、あるいはその他のいろいろな関係や組織に何か大きな影響を与えている例がもしあれば教えていただきたい。対立ということを問題にする場合に、都市と村落との対立のほかに都市のいろいろな事が農村に入って村落内部にも対立が出てくると思う。この頃新聞などで工場導入に反対している村長のリコールという問題があるが、その他に内部に入っているから対立をもたらしただけではないか。だから資本による直営農業というのはインテグレーションとしてだけでは理解できないのではないか。む

しろ村落の対立とか解体をもたらす要因になるのではないか。たとえば福島県の相馬市に玉野という山奥の部落があるが、そこにブローラー工場ができて、日雇いやっていた連中が工場に働きに行くようになって収入が非常に多くなり、その結果、町の勢力関係がすっかり変わってしまったという例がある。

(安原) 村の方での対応の問題がいくつか出されていたが、システム農業ということ、あれは特別に何かこうしてきたというようになことがあるか。

(蓮見) 話としてはだいぶ前から出てきたが、四四年の終りぐらいにシステム農業が失敗し、それ以来繰り返しいくつかの形で出てきているが、たとえば庄内のものなどを頭においてシステム化というものが予想されていた。あの例などを見ると、むしろ分解の方向へ来た。ああいう線には必ずしも乗っていかない。ほかにもいくつか念頭においている地域がある。

(中野) 佐々木さんの提起された問題は、大きい問題であると思うが……。都市と農村の対立が今後の宿題だと言っておられるが、これはたとえば資本と労働の対立との関連があると、蓮見さんの言われた都市と農村の対立の指標というか、対立の概念というか、都市と農村の対立の指標をどう考えられるか。

(蓮見) 都市と農村の対立という事柄それ自体については、今日触れない方がいいだろうと考える。で、状況というふうなことで何かまわりをぐるぐるまわるようなことをお話ししてきたが、宿題委員という方から考えると、やはり大会にそれを集中するという必要があると思う。恐らく大会では都市と農村の対立ということに関連して色々問題提起され、そういう過程で本格的な形で議論が展開す

るということで、今日はあまり理論的なレベルでの発言はしない方がよからう。

(中野) ただ逆に農村側というか、地方自治体が大都会の工場を誘致すると、工業用地という形で。そうすると都市と農村の対立というよりもむしろ協調というか、連繫というか、そういう面があり得ると思うが。

(佐々木) 連繫という場合、自治体の理事者側にとってはそれは連繫になり得るが、そしてそれを連繫という言葉で表現する場合はあるが、やはり問題は住民の側の問題だと思ふ。一般に工場が農村に進出していって工場労働者として雇用すれば収入もふえるだろうからということ、あたかもそれが農村の生活を救うのだという形で入ってくる。しかしそのことに非常に大きな問題がある。やはりその点を埋めていかななくてはならないと思ふ。

(中野) 上からというか、地方自治体側から、要するに在宅通勤という形で、これは兼業化、脱農化を促進することになる。

(佐々木) 東北などの場合を例にとると、やはり米が足りないから米を作った方がいいという農家が多いわけである。そうすると工場労働力を吸収されると農業労働力が不足してくる。そして現在だんだん食料が不足してくる。その場合あたかも農村の近代化という、近代的な生活様式をさせるといのが農村の救済にはならないと思ふ。それはあくまでも権力者側の言い分である。だからそういう側からとらえるのではなくて、もっと下の側からとらえていく必要がある。いわば外見の見解の様式というのは必ずしも農村の公福祉につながらないと思ふ。そうすると今までの開発意識というのと、同じになってしまう。

(戎野) 土地係数が高くなってくるということは農業が内部から壊れていると、要するに農業をやるよりも土地を金に替えて、いわゆる銀行利子の方が農業収入よりも多くなるという意味だろうと思うが、そういう農業収入というか、農業生産による収入という面から見ただけには確かにそうであるし、それを前提とすると土地の流動化というのはかなり活発になるはずである。ところが、土地に対する執着というのはかなり農家としては強いという逆の現象がある。これはやはり土地が単なる農業生産的な意味ではなくて、もっといろいろな側面があるのではないか。仮りにこれが不動産屋と考えれば、これだけの土地の値上がりをするならばむしろもっていた方がいいということ、これは簡単に即断できない側面をもっているのではないか。

(蓮見) それは確かに言われる通りである。実際土地の流動化がそれだけ進んだということは、これに見合うような形で進んでいったといえれば決してそうではないわけで、農家としてみれば、土地を農業をやるための手段としてだけ考えてはいない。いわば資産としても持っているのだという面もやはり見る必要があるし、あるいはその他にもいろいろな面があるだろうということは確かにその通りであるが、ただその場合に、農業に対する期待というか、あるいは熱意というか、そういう面から考えてみると、土地はもっていたとしても農業に対する積極性というふうなものがそういう現象によって疎外されるということが出てくる。土地はあるにしてもそれは必ずしもそこで精出して一生懸命やって生産を上げなくてもいいというふうなことになるやすい。そういう形で地価の上昇がそのまま土地の移動につながるということではないけれども、それが農業に対す

る積極性を消失させて、たとえば反当収量の低下だとか、そういう形で農業の内部的な崩壊と結びつくというふうな面がある。そういうことに問題がある。

(戎野) 環境保全対策の推進ということで、これはやはり農業が担うべきというふうな簡単に言えないかもしれないが、農業、林業、それからほかの産業も含めて、やはりかなり重要な問題になってきていると思う。その中の一端を農業なり林業なりが担うと、たとえば去年の水害の場合でも、あれは国有林の乱伐のせいが非常に大きいのだと、いわゆる天災ではなくて人災だという批評がかなり強く出ていたようであるが、そういうことも一つはあるし、それから農業の生産のあり方自身が体制に関する過程においてかなり技術的な問題が出てきているということもあるし、国全体から考えても、国土の汚染とか環境破壊というのは、やはり大きな問題にだんだんなってくる。それを今から手を打たなければならぬ問題だという意味では非常に重要である。

(蓮見) 日本全体の国土保全ということから見て、つまり工業化によっていわば汚染され、破壊されることが非常に大きいということはあるだろう。そういう中で自然保全機能というものを客観的に見て、農業あるいは林業が果たしていることは確かにその通りであり、そういう点が重要になってきていることは事実である。ただその場合に一つは、一方では工業化をさらに積極的に進めるから保全をしなければならぬという形で問題を見ていくのかということがあり、もう一つは、客観的に見て保全していることは事実であるが、そのことが果して農業政策としてどれほどの意味があるかということがどうもよくわからない。つまり、林業の場合は崖崩れ、山崩れ等の

防的の意味で、防災的な役割というものをもっている。そういう意味では植林制度が重要である。農業の場合は自然保全を期待すると言った時に、極端に言ってしまうえば農業でなくてもいいわけである。つまり「緑」というものであれば。

(戎野) そうではないと思う。非常に小さな例になるが、山村あたりで土地が荒廃していく時に、今まで山だったところに保水機能がなくなったわけであるが、それが荒廃することによってその機能がなくなり、いわゆる水害の原因の一要因になる。そうなった山村の崩壊自身が公害を生み出すという原因も一面にある。それがだんだん広がっていくと将来どういうことになるかという不安をもっている。

(運見) 緑であるという必要はあるが、必ずしも農耕が行なわれなければならないということはない。つまり木を植えてしまってもいいのではないかという意味で、積極的に食料生産だとかあるいは農産物をどうするかという生産的な意味ではなく、単なる保全ということを考えて場合に農業とそれが言えるのかということがよくわからない。

(戎野) それは確かに農業という、生産という面ではたとえば農村集落とかあるいは人がいなくなるとか、そういったものを含めて考えているわけである。産業としての問題と言われた通りかもしれない。それから集落の環境施設のことについて。これは高福祉農村という意味では非常に重要になると思うが、この問題が一つあるのではないか。これは大会への宿題という形で具体的な内容はあるが、この政治の内容というのはかなり問題にしているのではないか。こういう環境施設を含めたいわゆる福祉を増進するためのいろいろな政策というものは一面において旧来の村落社会を崩

壊し、一面においては逆に村落社会の耐久率がよくなるわけである。この二つの側面をもっているものがこういう政策の場合には非常に簡単な、どちらでも解釈できるような文章で書いてあるわけであるが、それを機能の面から見た場合には、二つに分けて細かく検討する必要があるのではないか。昼頃帰って来たのだが、岩手のある山村に行つて、施設などはかなり整備された村であるが、その地域を見ていて、やはり二つの機能をもっているということと、生産組織やそのほかの村落の構造といったものと結びつかない形でこれが進められていると、そこに非常に何か問題点の一つを感じてきたのだが、そういうものを総合的に見た上で施設の位置づけというものをはっきりさせた上で展開するというのが必要ではないか。印象が新しいので、つい言葉として出てきたのであるが。

(運見) 今まであまりこういった面について私共は考えてこなかった。つまり集落、それから土地問題として考える場合にも耕地がある程度考えられ、それから農業に直結するような形でのものは考えられてきたが、こういった集落の中の道路であるとか、あるいは生活環境についてはあまり目を向けてこなかったし、それが個々の農家の生活なりあるいは集落の機能にどうつながっているのかという定義などは必ずしも充分つけられていない。それはもっと溯っていくべき、農家生活というものについての把握が必ずしも充分でなかった。それぞれのものも持っている生活に対する意味というふうなものを必ずしも充分とらえていないのではないか。そういった意味で戎野先生の問題などもわかりにくい。今まで見てこなかったところでもあり、あるいは充分でなかっただけにどう扱っていくか大変むずかしい。

(高橋) 私、「農村基盤整備総合パイロット事業」というのを一つ見たことがある。たとえば集落内の道路を整備する時に、その場合集落内の整備をすると住居は移転しなければならぬが、これは農林省の仕事ではないからできないというわけである。住居がどうということとは都市計画事業でやってくれということになる。ここでやはり人間の生活がかなり総合的なもので、農林省の仕事だけと結びついているわけではなく、いわゆる農政だけでできるものではない。それが今の段階でも全体的な経済計画の中では、生活環境整備などと言われているが、ここで言われている農政関係のものであると非常に一面的である。たとえば河川改修などは建設省の仕事であるから農林省は手をつけることができない。上流の方で基盤整備をやらうとすると、土砂が流れ込んで下流が流れない。基盤整備あるいは生活基盤の整備にならない。そういうところで一体農村の生活というのはどういうものなのか、ということをお我々としてはやはり描いておく必要がある。農政にかかわるところだけで考えていったのでは、どうも生活がつかまえない。それからもう一つ我野先生が言われた最初の農地法、財産としての、そのことで私、愛知県を見てきたが、愛知県の田んぼの面積は五十六万ヘクタールあるだろうか、三河の方へ行つたのであるが、完全な請負で、一戸で三〇〇〜四〇〇ヘクタール耕耘、代かきやるような農家が沢山ある。そうすると預けている方はそれで収入を上げようという意識はないわけである。やはり財産管理で、愛知県も集団栽培というのは非常に盛んなところであったが、今ではほとんど崩壊して、愛知県はいつでも先取りする方であるが、少数として、あるいは一戸の農家で雇用者を雇って、東北あたりからオペレーターを雇ってきて、そし

て常時これをかかえて、農繁期には四〇〜五〇人臨時雇をかかえて起こしてまわるという形をとっている。これで農業がなくなってしまうかという点、そうでもない。「新全総」の計画でも農地がつぶれるというのは二〇万ヘクタールだったか、しかし愛知県一県で五十六万ヘクタール田んぼはあるわけである。それをやはり保全していかなくてはならない。農地でなくすれば宅地化してしまう。であるからしばらくこういう形態が続くのではないか。五年や一〇年で農地が全部宅地になる、工業用地になるということもないし、農家もすぐ売ってしまおうということは財産保全ではないので、そういう意味ではやはり財産保全と関連して、農業は続いていくのではないか。今言ったように非常に簡単に簡単に請負やってくれるが、採算は全然合わない。七〜八俵しか取れないところで耕耘・代かきで一万円払う、稲刈りで一万円払うと、田植えでどのくらい払うなどとやっていたが、全然合わないわけである。そういう私の印象記であるが。

(我野) 後の方は全く同感であるが、前の方の問題で、実は聞いたところ、集落再編成をやる時に土地のかなり奥まったところから環境条件をよくするためにといてできるだけみんな出てくるようにということ、新しく宅地を造成してそこへ移ってというようにやったわけであるが、これは沢内村であるが、ところが半分出てきて半分出てこない。これは東北大学の社会学の方々が調査されて、詳しい報告書が出ているが、やはりかなり社会的に見ても問題があつて、そういうところをどう考えるかということを実は私もわからないので、非常に困っているところである。それから社会福祉、あるいは環境整備の問題、生産の問題、ほかの農林省以外のものも

全部入ってくるわけであるから、そういうたものと関連してどう総合化していくかということでは、はっきりした解決のメドがつくような何かアイディアはないものか。

(高橋) そういうことに関連して、都市と農村という場合にやはり「村」がつくし、ある種の生活空間みたいなものをやはり考えなくてはならないという気もしている。どういう生活観念をもっているのかという形でそういうことを考えた場合に、地方行政とかあるいは広域生活圏の問題だとか、そういうものも考えてみる必要があるのではないか。先程のパイロット事業の例と同じように、農業サイドだけで見ていると、やはり農村をつかんでいるのではなくて、農業から見ているという感じであって、どうも割り切れない気がする。

(安原) 生活空間とはどういうことか。

(高橋) 都市と農村と言う場合には、工業あるいは資本と農業というものと、もう少し違った内容が含まれているような気がする。資本主義であるから基本的には都市的な生活様式と農村的な生活様式というのは、ある程度は同じようなものになっていくが、ここで問題になるのは、それが本当の意味での融合にならない、対立を含みながらの、融合するような条件はできあがっているけれども、所詮はやはり対立し矛盾するところである。やはり都市という生活空間と農村という生活空間は若干違うようである。資本と労働が集積する都市と、現在の農村はだんだん都市的な資本によってつかまれ、労働者化しているので、都市に接近しているとは思いますが、そういうことを考えて生活空間と言った場合に、行政とかそういうものも含んで考える必要があるのではないか。そこまで拡大すると

都市と農村と言った場合に、単に資本と農業という関係ではなくて、基本的には資本の利益を代弁する形をとっていると思うが、地方自治体のようなものの政策、そういうものも考えられてこなくてはならない。

(安原) だいぶ大きな理論的な問題になってくるわけである。今日のところは蓮見さんのご報告は、大きな理論的な問題を最後にポコッと放り出されて大会の議論ということで、素材としては沢山出たという印象はあるが、何か今まで出されてきた問題点について、さらにまた何が現在の特徴的な局面という形で、こういう点をやはり考えておく必要があるのではないかというように、付け加えるようなことはないか。

(我野) 兵庫県で私が調査した時の印象であるが、先程道路の問題が出たが、そこに国道九号線が通って、今までかなり奥まった山村であつたが、そういう交通条件の変化ということが一つのきっかけになって工場が進出し、小さな工場であるが、いろいろな環境条件の変化が起こつた。で、住民と地元の人が話していると、地元に対する不満というものがかなり蓄積しているか、現われてきている。というのは、都市との交流が激しくなればなる程いわゆる格差は少なくなるが、格差意識は拡大してくる。そういう人間の価値評価のフレーム・オブ・レファレンスといったものが変化していく過程を、都市と農村の対立の中に含めていく必要があるのではないか。

(佐々木) 都市のいろいろな、例えば資本が入ったことによってそれまでの潜在的な対立、部落内の対立感情というのが非常に顕在化してくる場合もある。であるからそういう点でやはり、さっき生活空間と言われたが、一つのものがいろいろなものに波及してい

て、村落がもっているいろいろな問題が出てくると、やはりそういう点で、ちょっと安易な言い方をすれば、村落の生活そのものをとらえるような仕方ではいかなくてはならないのではないか。さっき岩手県の話をしたが、あれなども確かに行政上の問題も非常に大きい。何か非常に乳児の死亡率が大きくて、そのために困って、村長のところへ行くわけである。やはり生きた生活であるから、一つのものがいろいろなものに関連してくるわけで、そういう限界的な何か把握の仕方が必要になってくるのではないか。

(安原) それでは時間の都合もあるので、今日いろいろ出されたような現象的な問題、これはいわば理論的に整理してみるとどういふ問題をそこで加えてくるかというようなことで、このあとの研究会でまたそういう点のはっきりしてくると大会にもかなり効果が期待できるという感じがあるので、そういう点だけ司会の方からお願だけ申し上げておいて、一応これで終りたい。